

内水氾濫の安全対策は

公明党
大瀧 金三



喜多理事 最悪事態の洗い出し中



▲土砂堆積が見られる喜瀬川

問 近年、台風が超大型化しており、台風19号は東日本を中心に甚大な被害をもたらした。

答 町内の喜瀬川・水田川や用水路・排水路などの土砂堆積の安全確認は十分にできているのか。

また、本町の国土強靭化地域計画の策定は進んでいるのか。

答 毎年、各地で豪雨災害が起きている中、町内の弱い箇所を把握し、水防活動の現地確認箇所としている。

県から国土強靭化地域計画策定の要請があり、

交通安全教育の実施は
教育長 小学校の校庭で体験

問 身をもって危険性を知り、回避能力を高める交通安全教育を取り入れている学校もある。本町での実施は。

答 校庭に大型車両を持ち込み、内輪差や死角などについて子どもたちに説明し、実際に体験させている。

避難所運営ゲームは
岡本 理事 開催の要望はない

問 避難所運営をみんなで考えるひとつの方法として、カードを使って図上で避難所運営の疑似体験ができる避難所運営ゲーム(HUG)がある。自治会などからの開催の要望は。

答 現時点では開催の要望はないが、すでに避難所運営マニュアルを策定しており、全ての小学校で訓練を実施している。

食品ロス削減の推進は
尾崎 理事 イベントなどで啓発したい

問 本年5月に「食品ロスの削減の推進に関する法律」が成立し、10月が「食品ロス月間」、10月30日が「食品ロス削減の日」と定められた。

国際社会全体が、食品ロス削減に取り組んでいる中、本町として食品ロス削減推進計画は策定できているのか。

答 食品ロス削減推進計画については、県の推進計画を踏まえ、策定に向けて検討したい。

提案のあった「食品ロスダイアリー」は、有用な手段の一つとして活用を検討していく。

イベント時に啓発にも取り組みたい。

その他の質問
▼仮称「おくやみコーナー」の設置について

通学路の安全対策を

政風会
岡田 千賀子



町長 歩道交差点に柵を設置



▲注意！事故の危険がある歩道交差点

問 通学路における無防備な歩道交差点等が多数ある。

答 巻き添え事故防止などの安全対策を。

問 近年、特に歩道における車両事故対策が求められる。以前は乱横断防止の柵(ソフトガードポールなど)を設置していたが、より頑丈な車両対策用柵の設置を進めている。

答 南中学校プール側の歩道交差点では歩行者や自転車などの事故の危険がある。安全対策は。

問 学校プールの外壁が道路境界となっている。

予防接種の助成拡充は
町長 必要性の高いものから

問 現状では見通しを良くすることは困難だが、プール改修の際には、隅切りなどで対応する。

答 現状では見通しを良くすることは困難だが、プール改修の際には、隅切りなどで対応する。

問 町で助成を拡大した「ロタウイルス」は来年度から国の定期接種になり、町負担が軽減される。昨年度のインフルエンザによる生徒児童の出席停止数は合計694人、学級閉鎖は10学級だった。

答 保護者の方から多数の要望が届いているインフルエンザ予防接種費用に助成を。

問 必要性の高いものから助成していく。子どもへのインフルエンザ予防接種費用の一部助成は現在どのよう考えているのか。

その他の質問
▼待機児童の解消を目指して
▼誰もが集いやすい公園整備と駐車場運営を

専任担当者の配置は

新政会
松下 嘉城



教育長 専門の嘱託職員を配置



▲ドローンを使ったプログラミング教育

問 来年度から必修になる小学校プログラミング教育の推進に向けて、専任担当者の配置は。

答 サポートチーム播磨の取り組みの一つとして、専門の嘱託職員を配置している。来年度以降も充実を図るため引き続き配置する。

問 プログラミング教育では、子どもたちが自ら取り組み、働きかけをする授業が期待されるが、どの教材が最も重要なのか。

答 主体的・対話的で深い学びを、全ての教科や領域で取り入れることが重要と考える。

交通安全教育の実施は
教育長 小学校の校庭で体験

問 身をもって危険性を知り、回避能力を高める交通安全教育を取り入れている学校もある。本町での実施は。

答 校庭に大型車両を持ち込み、内輪差や死角などについて子どもたちに説明し、実際に体験させている。

避難所運営ゲームは
岡本 理事 開催の要望はない

問 避難所運営をみんなで考えるひとつの方法として、カードを使って図上で避難所運営の疑似体験ができる避難所運営ゲーム(HUG)がある。自治会などからの開催の要望は。

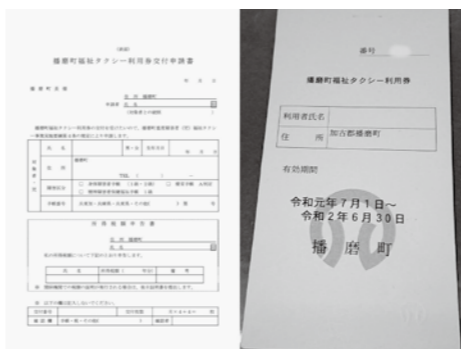
答 現時点では開催の要望はないが、すでに避難所運営マニュアルを策定しており、全ての小学校で訓練を実施している。

福祉タクシー券の改善を

無所属
宮宅 良



町長 改善に取り組む



▲外出機会の自己決定拡大を(福祉タクシー利用券)

問 現在は、片道3枚まで福祉タクシー利用券を使用できる。使用枚数は、障がい者自身が、自己選択や自己決定を行えるようにすべきである。福祉タクシー利用券の使用枚数を、改善すべきでは。

答 当事者が選択や決定をできることが、現在の障がい者支援の姿である。近隣市町やタクシー協会との調整が必要であるが、使用枚数の改善に取り組んでいく。

移動手段の充実を
町長 高齢者への支援を急ぐ

問 交通困難者への移動手段の充実、喫緊の課題である。タクシー料金補助の検討状況は。

答 特に支援が急がれる高齢者に対して、令和2年度から対応していく。

就職氷河期世代の採用を
町長 実情に応じた枠を検討

問 就職氷河期世代を対象に、正規職員の募集を行うべきでは。

答 町職員の年齢構成を平準化するため、採用年齢を限定した採用試験を実施している。今後町の実情に応じた、採用枠を検討する。

見守りカメラの導入を
岡本 理事 民間サービスで補完

問 子どもや認知症の方の位置情報履歴を、保護者やご家族にお知らせできる見守りカメラを導入すべきでは。

答 民間サービスを活用することで補完できる。